

# 東京臨海部実証実験

## 計画概要

2019年6月5日

# 交通環境情報利用のロードマップ<sup>°</sup>

► 交通環境情報の利活用により高度な自動運転とSociety5.0を実現する

## Society5.0の実現 (CPS\*の構築)

### イシフラ協調による 高度な自動運転 の実用化

高精度3D地図の  
低コスト化による普及・促進

地理空間情報マーケットの構築

交通環境情報の可視化  
と社会活用

先読み情報による安全でスマーズ  
な走行実現

交通環境情報サービスを活用した  
高度な移動サービス・物流  
サービスの実現

交通環境情報や  
地理空間情報の  
多分野での利活用

ダイナミックマップ基本構想  
静的情報の整備・構築

交通環境情報配信に係る  
東京臨海部での実証実験

利活用の仕組み構築  
(協調領域)  
動的情報

民間プローブ情報収集と活用  
路車連携・合流支援等  
信号情報提供

静的情報基盤  
の確立

高精度3D地図及び情報  
の紐付けに係る  
大規模実証実験

規制情報の  
リアルタイム配信

~2018

【自家用車市場化・サービス実現シナリオ】  
一般道での自動運転<L2>

2020年まで

高速道での完全  
自動運転<L4>

2025年目途

\*CPS : Cyber Physical System

# 東京臨海部実証実験の狙い

- ▶ 公道・混在交通における国際的にもオープンな実験環境下での実証実験により、産学官が連携して高度な自動運転の実現の加速に取り組む。

## 実証実験の目的

- 研究開発の促進
- 國際的な協調／標準化
- 社会受容性醸成
- 技術訴求

## 達成方策

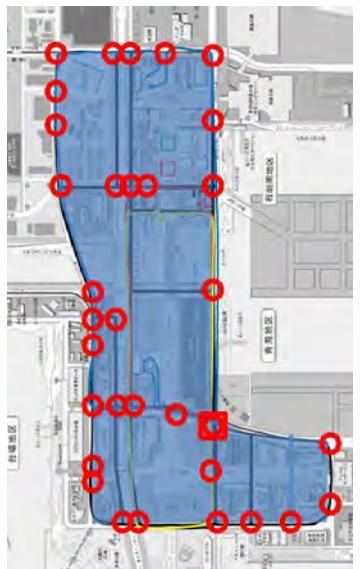
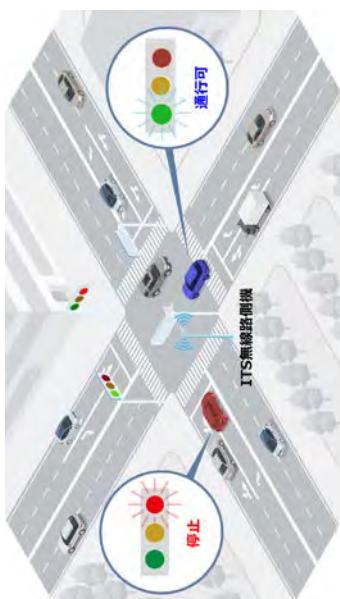
- ✓ 交通環境情報の整備・提供・実証の実施
- ✓ マッチングファンドによる民間投資誘引
- ✓ 海外含めたオープンな実験参加者募集
- ✓ 産学連携による実験成果の共有
- ✓ インパクトアセスメントの実施
- ✓ 広報イベントの企画
- ✓ 2020オリパラの機会活用した自工会連携  
市民参加イベントの企画

# 東京臨海部実証実験の概要

## 〔実証内容とエリア〕

### 信号情報提供

高精度な3Dデジタル地図情報と  
信号の現示及び切替タイミング情報  
による、一般道での高度な自動運転



【臨海副都心地区】

### 高速道本線合流支援

高精度な3Dデジタル地図情報、  
ETCゲート情報と本線側車両情報  
による、高速道での高度な自動運転

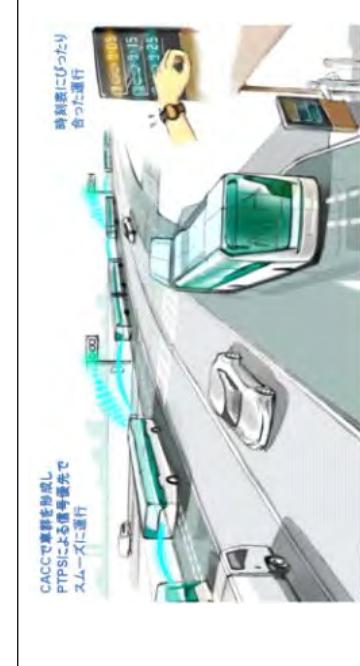
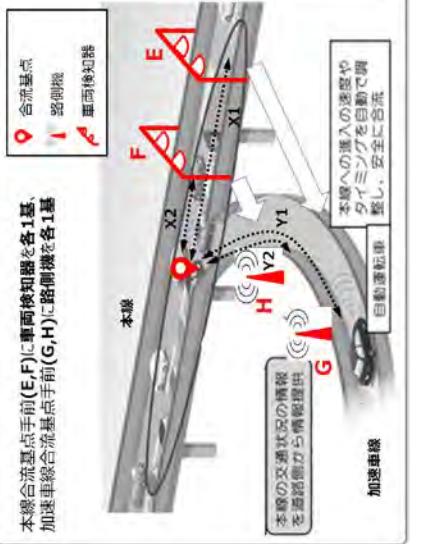


【首都高(羽田線・湾岸線)】

### 公共交通システム (自動運転バス)

自動運転技術の活用とインフラ  
協調システムによる、混流交通下  
での次世代型ART

(ART: Advanced Rapid Transit)



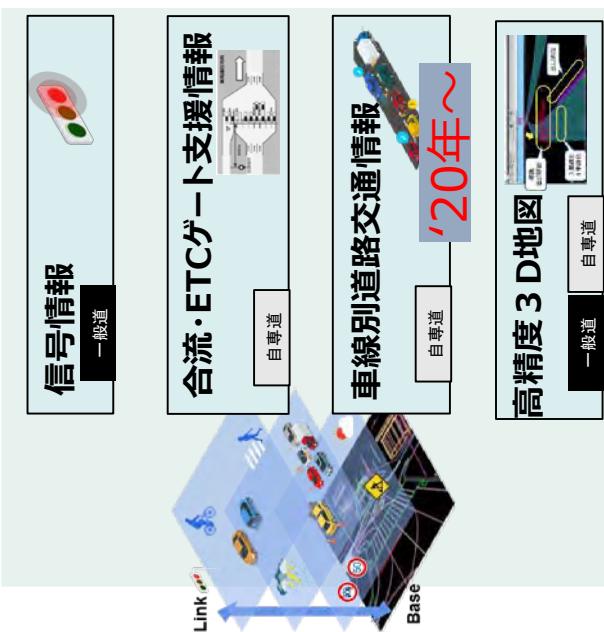
【羽田空港地区】

# 交通環境情報報の整備・提供・実証取り組み

交通環境情報利活用の  
実証環境構築

実交通環境における  
実証実験

参加者による実証と  
合意形成



※研究開発の進歩に応じ技術テーマ増減の可能性がある

## 【進捗状況】

- 道路管理者、東京都、関係府省庁等の連携によりインターフェースの開発・設置整備を平成30年度より推進中
- 効果仮説に基づく実験手法立案済
- 検証の為の多面的なデータ収集に向け機材選定中

- 国内外カーメーカー、サプライヤ、大学、ベンチャーエンタープライズ28機関(22グループ)(最大約100台の参加規模)(マッチングファンド方式)

# 広報・市民参加イベント（検討中）

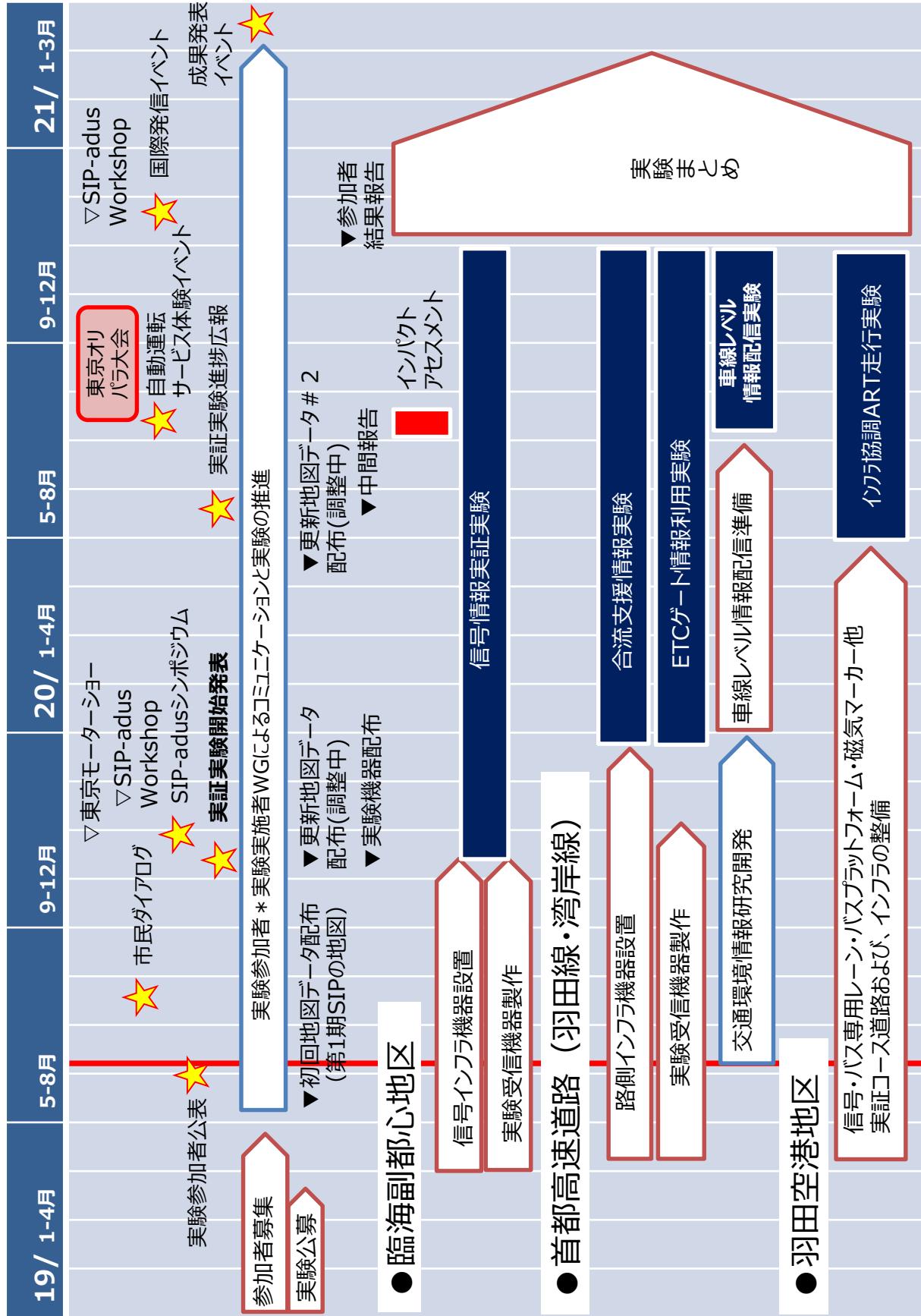
## 企画考え方

- 最新実験車両 \* インフラ協調システム、現物による先進性の訴求
- オリ・パラ会場となる臨海部での継続的な情報発信
- 一般市民／メディア、海外を含む専門家、政策関係者、それぞれに対する訴求
- 技術プレゼン型イベントとサービス体験型イベントによる効果的な発信
- 自工会との連携(ほか、国内外メーカー、大学、ベンチャーの参画

## 今後の進め方

- ✓ 実証実験参加者様への車両・要員協力要請。
- ✓ 最大効果に向けた全体広報戦略とイベント企画の緻密化。

# 大日程



※研究開発の進捗に応じ技術テーマ増減の可能性がある